

評価項目ごとの評価・提言等及び今後の手立て

	学校関係者評価委員からの評価・提言等	提言等に対する今後の手立て
1 教育理念 ・目的 ・育人材像等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念は、はっきり大きく学校案内(の冊子)でも明記した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に製作する学校案内等の広報資料は、教育理念がはっきりわかるように、レイアウトを変更します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・開学当初は、国際バラとガーデニングショーや名古屋フラワードームといった全国的なコンペに出展していた。イベントは、授業や実習とは違い、凝縮しているので感動があり、教育の面でも有効である。上級マイスターコースが廃止され、かつてのような活動は難しいと思う。ただ、全国レベルのものに、せめてエントリーしてみてもどうか。卒業生等も協力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状は、県等からの要請による学外活動及び第2実習フィールドである花フェスタ記念公園の活用で精一杯です。 ・学外での創作活動は、学生が得るものは多いと考えていますが、それを実施するための予算・スタッフが十分ではありません。また、かつての上級マイスター科の学生とは異なり、現在は高等学校新卒者が大部分を占めていますので、まずは授業内容をしっかりと身に着ける必要があります。 ・意欲ある学生には課外活動への支援を行っています。全国的なコンペ等に係る情報提供を進めていきます。
2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は、学校運営会議で行っているということだが、岐阜大学の例でもあり、委員会を立ち上げて行うのがよい。自己評価委員会は、より第三者的であり、学長からの諮問に対して答申するのがベターである。文部科学省からの強い指導があり、どこの大学でも自己評価委員会を設置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の実施は、本学教職員が自らの教育活動等を振り返る機会であり、従前どおり学校運営会議で検討を行い、教職員会議で協議することで、その役割を果たしていると考えます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルのための評価であるが、PDCまではできている。残るアクションを起こす部門があった方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価及び学校関係者評価で得られた改善事項は、従前どおり、関係する委員会で対策を実施することとします。
3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインの授業は、すごく特徴的でよい取り組みである。 ・これだけの学生数で、これだけの教員、非常勤講師がいる。すごいことである。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師に関する予算の問題はあるが、超一流の先生に教えてもらうということが、非常に大事なことである。 ・県職員の中には園芸分野の教授に秀でた方もいるので、その方に授業をしてもらえればよいとも考える。 ・時代は大きく変わるので、教員だけでは限界がある。非常勤講師の力を借りることが必要である。花の担い手応援団が結成される。この応援団を活用してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな非常勤講師の人選は、その実績を基に本学の担当教員が十分な検討を行い、学長の承諾を得て行っています。 ・現在、県職員2名が非常勤講師に就任しています。今後は、試験研究機関や農林事務所等との連携を深め、講師の依頼や現地での授業を検討していきます。 ・花き就農応援団に加入してみえる非常勤講師は、現在4名です。新たな講師選定や現場視察等を行う時は、積極的に花き就農応援団の方に依頼します。 ・講師の知識・技術が学生に伝達され、質の高い授業が行えるように、担当教員は、授業の進め方について講師と綿密な打ち合わせを行うように努めます。

評価項目ごとの評価・提言等及び今後の手立て

	学校関係者評価委員からの評価・提言等	提言等に対する今後の手立て
3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の中にはレベルがよろしくない者もいる。また、教員間の連携が取れていないことがある。 ・黒板(板書)が見にくい、デモンストレーションが何をしているのかわからないといった学生からの意見を無視するということがある。 ・保護者の授業参観、公開授業、教員相互による授業参観を取り入れてはどうか。学生のアンケートだけでは結果の厳密さに欠ける。透明性、客観性の確保になる。 ・学生が1年間、つまらない授業、たのしくないというのが一番の問題である。 ・学生による授業評価のアンケートは、なぜ、このような調査をしているのか？授業内容そのものがいらぬということも含めているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学長及び副学長が個別指導を行い、改善に努めます。 ・授業を映像で記録し、それを題材として、その教員と指導者が討論を行うことが、教員及び授業内容の向上に最も効果的と考えます。この方式の導入を検討します。 ・授業がいらぬということは考えていません。授業内容を改善していくための調査です。最後の授業でアンケートを学生に記入してもらい、その教員に提出するのではなく、職員が回収し取りまとめています。 ・アンケート結果を踏まえ、その教員に強い指摘・指導を行っています。かなり改善されてきたのではと考えています。
4 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後2～3年は、卒業生の様子を見ていくこと。教員がしっかりしているか、つまり、その点から成績評価をしているか。今後は、評価項目としていれてほしい。 ・卒業生は、3年たつと半分が転職する。そのへんを分析しないとイケない。(その学生の)性格とか、(就職先が求める)必要技能がわかれば的確な指導ができる。卒業後のフォローは、同窓会もしているが、音信不通になるものもいて難しい所がある。学校と協力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業直後は、何らかの方法で卒業生と連絡を取ることは可能ですが、それ以降は、困難です。卒業生が自発的に本学を訪問する場合は、教職員が在学中と変わらないレベルで対応しています。 ・就職先の決定は、その学生が行います。その段階までには、教員は持っている情報を提供するとともにアドバイスを学生に行い、判断をサポートしています。 ・転職の理由は、人それぞれです。生活環境の変化といった個人の事情や就労後の労働条件変更といった採用した企業によって生じる問題もあります。 ・少しでも卒業生のフォローができるよう、就労後の追跡調査も含め同窓会と協力していきます。
6 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・本学及び学生募集について、東京でのPRを検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立の専修学校であり、当分の間は県内でのPR活動を優先していきます。
7 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目が「2」という評価はづらい。評価項目を他の項目と再整理したらどうか、また、3でもよいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の自己評価を実施する際、評価項目の検討を行います。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・13年前から国際園芸アカデミーを見てきている。学長は、学校運営・教育に熱心で、大学教授とは思えない活動をされている。未永く学長をしてもらいたい。 ・県内の花き業界は、新たな花き振興戦略を仕掛けているが、学長は、気軽に参加してくれる。しかも、学生を連れて。今後とも、業界との連携をよろしく願います。 	